

桜蔭俳話会 五月句会(第二九五回)

山下公園にて吟行句会を実施

平成二十三年五月二十二日

4点②橋桁に付きし貝殻夏きざす 友子

赤き薔薇柱に多く豪華なり 眞三

3点①薔薇園や影の一つに亡命者 守

ハンカチの白にも確と裏表 貞勝

①夏蝶の吹かれて風の港かな 守

氷川丸観光役を夏に見る 眞三

2点②一閃の紙飛行機や樟若葉 秀一

青嵐風力発電緩慢に 佳史

白シャツを映して深き海の青 守

新緑や並み脚かるき調教馬 貞勝

夏桑にかこまれ裸婦像黝光る 佳史

一匹の蜂の水浴び水の階段 幸

少年ら密談あとの水鉄砲 秀一

陽を貯めて赤紫の桑の実二つ 幸

薔薇の門その紅のしじまかな 貞勝

初夏の陽を浴び快音のシーバスや 眞三

大栈橋大佛次郎のパナマ帽 秀一

公園の風に遊ばるる棕櫚の花 佳史

1点①みらい都市のビルを映せる青葉潮 友子

五月朝風のささやき聞いたなり ヤエ子

バラ園は昔の波止場霧笛鳴る 友子

不在投句 (野上貞勝)

薔薇咲いて葉のみどり色定めけり 秀一

鳩遊ぶニンフの肩や青葉照る ヤエ子

日時計の影一直線に夏の昼 佳史

五月の風はらんで回る風車かな ヤエ子

袈裟がけの生麦事件碑若葉寒 貞勝

父と子の紙ヒコーキや風青し 友子

大輪のバラ咲く幹の太さかな ヤエ子

紅薔薇やひとを愛すること難し 守

窓ぬらす五月の波や遊覧船 秀一

楠若葉流れに遊ぶすずめたち ヤエ子

港には港の時間ばら開ける 守

※ 栈橋の緑に映える客船のドラ 幸

青筋の浮き立つ仁王新樹光 貞勝

公園を日傘ゆつくり三人や 眞三

大掛声のカッターレースや満開のバラ 幸

木々多く公園抜ける若葉風 眞三

かけ声のオートレースや權重し 友子

汽車道に夏衣の若者歌はずむ 幸

碑に斬髪令とあり夏木立 佳史